

「秘密計算・秘密分散保管システムを用いた医療データの統合解析環境構築と医療応用」に関する研究

1. 研究の対象

2012年4月以降、大阪大学医学部附属病院および大阪国際がんセンター、大阪急性期・総合医療センター、大阪医療センター、市立東大阪医療センター、大阪労災病院を受診した患者

2. 研究目的・方法

病院に蓄積されている診療データを統合して解析できる環境を構築する際に、秘密分散方式・秘密計算による暗号化したままでの集計・統計処理を用いた医療情報解析研究の実証・検証を目的とします。

利用又は提供を開始する予定日：研究機関の長の許可日～ 2028年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病院で受療した際に生じる情報を用います。具体的には、電子カルテの情報（検査や治療の記録、処方など）、保険診療で行った検査や治療の記録（診療報酬レセプト）、入院中の療養の情報（DPC様式）などから得られる病名・病歴、検査歴、治療歴、処方歴等の発生状況を扱います。

4. 外部への試料・情報の提供

この研究では、大阪大学医学部附属病院および大阪国際がんセンター、大阪急性期・総合医療センター、大阪医療センター、市立東大阪医療センター、大阪労災病院の計6病院に蓄積された診療データをNTTドコモビジネス株式会社が開発した秘密計算システムを用いて秘匿性を保ちながらデータベースを構築し（秘密分散保管）、さらに秘匿性を保ったまま統計解析を行う（秘密計算）ことにより、疾患や治療、医療安全に関する関連要因の探索と予測モデル作成を行うものです。また、第一三共株式会社とともに製薬の視点で秘匿性を保ったままデータ解析をすることを想定した実証検証も行います。データの提供にあたっては、秘密分散保管と秘密計算により、常に暗号化された情報を特定の関係者以外がアクセスできない状態で解析いたします。製薬企業は秘匿性が保たれた情報集計情報にのみアクセスします。

5. 研究組織

（利用する者の範囲）

研究代表機関及び研究責任者

大阪大学医学部附属病院 医療情報部 教授 武田理宏

共同研究機関及び研究責任者

大阪国際がんセンター 医療情報部・部長 西村潤一

大阪急性期・総合医療センター 医療情報部・部長 森田 孝

大阪医療センター 病院長 松村 泰志

市立東大阪医療センター 病院長 中 隆

大阪労災病院 病院長 平松直樹

NTT ドコモビジネス株式会社 櫻井陽一

第一三共株式会社 データインテリジェンス部 松下 泰之

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内
で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情
報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご
了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出くださ
い。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学医学部附属病院 大阪府吹田市山田丘 2-15

全体研究責任者：大阪大学医学部附属病院 医療情報学 教授 武田理宏

研究代表者：大阪大学医学部附属病院 医療情報学 教授 武田理宏